

第2回新しい学校づくり美馬市・つるぎ町地域協議会議事録

(1) 新しい学校の基本方針について

委員

学校存続のためには地域の支持が大切です。学校と地域の連携により、学校の教育活動が豊かになり、地域も活性化する、そんな相互にメリットがあるシステム、就職も地域が受け入れてくれるシステムがあれば、保護者も安心して子供を送ってくれると思います。生徒の学びと生徒の進路を保障できる地域の学校にしていかなければなりません。

委員

私の経験から、小さい頃、美馬商業の文化祭に参加し、高校生の写真を見てすごいと思います、あこがれました。

中学生が高校の文化祭に参加すれば、高校生のことをすごいと思います。小中高との連携が大切で、文化祭や部活動にもっと参加してもらってはどうかと思います。高校に対する愛着や尊敬に繋がりますし、高校生も地元の子どもをかわいがってくれるような交流があればいいと思います。

委員

淀川工業のように吹奏楽でも活性化しているところがあります。小学校から吹奏楽をやっている子はたくさんいますから、その子達にとって魅力ある学校になっていると思います。

運動部だけでなく文化部も部活動の活性化になると思います。

委員

美馬商なら陸上やソフトボール、貞光工業ならラグビーやレスリングに伝統があります。

また、文化部、例えばJRCも地域のボランティアで活躍しています。それも地域に貢献できると思います。文化部の面でも伝統を引き継いでいける部活動になればいいと思います。

また、2校の校訓、そして伝統を大切に引き継いでいければと思います。

委員

産業界として採用時に最も大切と考えているのは、「誠実さ」です。

また、せっかく採用してもやめてしまう人が多くなっています。

再就職では正社員になるのは難しくなります。3年も勤めれば周りのことが見えてくるようになりますので、3年間は我慢できるような教育、職業観の育成を学校側に望みたいです。

委員

工業高校でいえば、新たな教育は新しい技術であると思います。その上で、社会の変化、課題に対応できるような生徒を育成したいと考えております。

委員

不易と流行という言葉があります。

商業経済，簿記，情報処理等，商業の基礎科目の中から商業人としての心構えを学び，豊かな人間性を身につけることと，コミュニケーション能力のある生徒を育てることは，いつの時代も変わらずに求められていることであります。

さらに，今の時代だけでなく，近い将来の時代や地域社会が求める人材を育成するために求められる様々な能力，例えば，マーケティング能力，国際交流能力，会計活用能力，情報活用能力などを教育課程の中で活かしていきたいと思えます。

また，教室だけが学習の場ではありません。生徒や教師が積極的に地域との関わりを持ち，学校の技術を商店街に提供したり，また，生徒が地域の行事に参加するなど，双方向で連携したいと考えています。

委員

キーワードは，「地域」，「部活」，「進路」です。

中学生が来たいと思う学校にしなければなりません。地域の方々の協力を得ながら，地域の交流を深めていきたいと思えます。地域で活動し，インターンシップなども行って，地元で就職できるようにしたいと思っております。

また，スポーツ指定校についても美馬地区の4高校は指定を受けておりますので，これまでの伝統を守りながらPRしていけたらと思えます。

生徒，保護者にとっては出口が見えることが魅力ですので，資格，免許が取れるようなカリキュラムにしていくべきであると思えます。そしてこのような目指す方向性を中学生や保護者に分かってもらえるようにしていく必要があります。

委員

「工業」と「商業」のそれぞれの特色を活かし，地域の理解を得た上で，子ども達が好奇心や意欲を養える高校にしたいと思えます。

そして地域，産業界から期待される学校にしていくことが大切です。

また，「人間性の育成」も大切です。教員と生徒が自信と誇りを持って，節度があり，ねばり強い生徒を育成していくことが重要です。県西部の職業専門高校として広範囲から生徒が集まってくるから，共同の精神と同時に競争していけるような学校にし，地域社会からも認識される学校にしていきたいと思えます。

委員

検定に受かること，資格を取ることは生徒の大きな自信に繋がります。

また，さらに上級の資格を取ろうと努力することは大切です。

委員

「人間育成」にはそれぞれの学校が培ってきた「校風」や「伝統」も大きな力になります。美馬地区は，他の地域よりも地域社会の教育力が高く，そのような地域の特色をベースに，美馬地区の4高校がそれぞれに成果をあげてきたと思えます。また，先輩がどんな成果を上げたかを知ることも在校生にとっては成長の力になります。そのような様々の力を生かして，新しい学校を作っていかなければならないと考えております。

委員

今、議論していることが10年後に通用するかどうかを考えなければなりません。

この高校に入れば大手企業に就職できるといった、入口から出口までが見やすいことが重要です。

さらに工業と商業のふたつの教育が受けられることをPR出来ればと思います。

委員

職業高校に入学してくる子は、大半が3年後には就職したいと思っています。商業科や工業科に進み、何か資格を取って就職したいと考えていますので、3年先の仕事を見越した教育内容が必要です。

委員

就職するときに地域のニーズに対応していなければなりません。

美馬・三好の医師会から強い要望があります。今、地域の看護師は大半が40代であり、看護師であれば地域の病院等に就職が可能であると考えております。

また、小中学校と高校の連携を進める必要があります。脇町中学校が貞光工業と協力して防災マップを作っています。また、穴吹中学校と穴吹高校も文化祭などでも交流しています。教育委員会としてもバックアップしていきたいと考えております。

(各校、新学科の説明)

委員

病院での看護実習が必要とありますが、美馬・三好の医師会から県議会へ「5年一貫の看護師課程の設置について」の請願が出され、そのような中で、地域の病院が全面協力してくれると聞いておりますのでご確認ください。

県教育委員会

設置についての請願はいただいておりますが、協力についての記載はされていなかったと思います。富岡東の例として、この程度の実習が必要であることを説明させていただきました。

委員

美馬商業の生徒は半分くらいが進学しています。昔は何人かが銀行に就職していましたが、最近は厳しいのだと思います。

専門学校等に進学した子は、その後、どこに就職したかのデータはありますか。看護や福祉のニーズはどうなっているのですか。美容や看護関係に進んでいる子が多いようですが、その子達は高卒で就職できなかったから進んだのですか、それとも最初から希望を持っていたのでしょうか。

委員

これまで、商業高校では、事務、販売への就職が中心でした。しかし、産業、就業構造の変化にともない、サービス業や製造業に就職する生徒が増えてきました。また、生徒の能力・適性、進路希望も多様化しており、生徒一人ひとりの進路希望に応じた指導が必要となっています。

しかし、生産ライン以外はすべてがビジネスにつながっています。例えば美容関係に進学しても、美容院を開業すれば商業科で学んだことが活かれます。

看護系に進学する生徒も何人かおり、高校入学時から看護系に行きたいという希望を持っている場合もありますが、商業科で学んだことは社会の一般教養として機能すると考えております。

委員

商業という大きな枠ではなく、もっと焦点を絞った教育が必要なのではないでしょうか。パソコンが使えるのが就職では最低条件です。この学校を出ればワードとエクセルは必ず使えるという保証があれば、就職にも役に立つと思います。

また、簿記の資格よりはホームページ作成能力などが即戦力であると思います。

委員

卒業してすぐに就職できることは重要ですので、就職できる技術を身につける必要があると思っています。看護科についても検討いただければと思います。

委員

昔は美馬商業でトップであれば確実に銀行に就職できていましたが、今はできていません。専門学校でも美容などに進む生徒も多いように思います。

これだけ専門学校に進む生徒が多いのなら、新しい教育を考えていくときに、学校独自に全く新しいものを取り入れ、3年間で専門学校的なことを学習すれば、負担も減るのではないか。商業教育から離れて、そういうことを議論すべきなのか、それとも、これまでの教育を踏まえるべきなのか検討すべきでなかろうかと思っています。

委員

美容も美容師だけでなく、美容整形を始めとする美や健康に世の中が敏感になってきています。それに関連づけたものも考えられると思います。

委員

産業経営、美容、福祉や看護という話がでてくるが、10年先には、他の学校にも看護や福祉が増えてくると思う。そうなったとき、就職先が狭まって、果たして福祉科、看護科で就職ができるのかと思う。先を見越して学科を創るのであれば、保護者としては、そこに入学すれば、どこどこへ就職できるというような見通しが立つものにしてほしい。

委員

学校が再編されれば、ひとつの学校は空きになります。現在、美馬地区の障害児は小中では障害児学級がありますが、高等部がなく、高校になれば、池田や鴨島に行かなければなりません。地域で育てたい希望があるのに叶いません。遠いところに通っていると地域の関心も薄れてしまいます。

県教育委員会

この協議会はまず2校のことについて話し合っていたいただきたいと思います。この地域にふさわしい教育は何かを考えていただき、それに必要な環境整備の話をしていただく。その時点で跡地をどうするかの話もご協議いただくことになると思います。

委員

養護学校設置の要望もあることを覚えておいて欲しいと思います。

事務局

資料にもありますが、新しい学校のクラス数は限られたものになります。その中で、商業・工業の教育は引き継いでいくこととしておりますので、学校の規模を踏まえて、新学科の議論も進めていただければと思います。

また、高校3年間でできる教育は限られており、新学科の中で、看護・美容など個々の希望に対して、専門学校的に対応することは難しいと思います。そのところを踏まえて、入ってくる生徒に対して、役に立つ学科ということで協議をお願いします。

委員

新しい学校では、美馬商業、貞光工業が一緒になるということで、商業科と工業科という異質の学科が併置されることになります。そんな中で、一番大切なことは、専門高校ということで出口の問題であると思います。美馬商業も製造業に多く就職していますが、一つの学校になった場合、そういう生徒は、工業科の生徒と製造業の就職に向かって競争しなければなりません。商業科から製造業に就職する生徒をどうすればいいのかという課題が生じてきます。

そこで、新しい学校としては、商業科のはっきりした色のある科、工業科のはっきりした科、そして統合するのであるから、商業・工業の枠を越えた視野の広い人材の育成もおもしろいと思います。新しい学科の中で学んでいく上で、工業色の強い学習を進める。商業に興味があれば商業の選択科目を増やすというようにし、製造業にも自信をもって推薦できる教育を実施してはどうでしょうか。